あか牛

No.57（秋期号）

熊本県畜産試験場

1986.10

社団法人日本あか牛登録協会

肉用牛統計

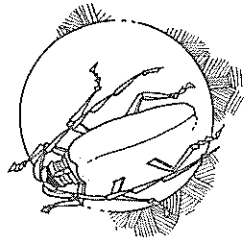
（昭和61.2.1現在　農林水産省統計情報部）

	飼養戸数	対60年比	飼養頭数	内(肉用種)	内(乳用種)	1戸当り頭数	飼養頭数対60年比
全国	287,100	96.3	1,662,000	1,077,000	977,200	9.2	102.0
北海道	5,200	97.4	73,700	51,200	181,700	49.1	104.2
青森	3,410	95.8	29,400	18,900	20,900	14.8	101.8
岩手	28,900	99.3	108,200	79,000	34,600	4.9	110.1
宮城	19,000	107.3	82,800	50,400	24,400	5.6	109.2
秋田	7,970	96.4	44,100	30,100	4,840	6.1	100.4
山形	6,300	95.3	49,700	34,200	16,700	10.5	104.1
福島	17,500	99.4	69,400	46,800	27,600	5.5	103.6
茨城	4,350	97.3	30,700	16,400	19,600	11.6	112.3
栃木	5,050	94.9	38,900	15,500	56,100	18.8	110.5
群馬	5,240	96.3	23,000	6,900	54,600	14.8	102.5
埼玉	690	98.6	3,000	1,300	20,900	34.6	104.4
千葉	1,110	103.7	7,240	4,950	28,400	32.1	108.2
東京	150	100.0	710	240	3,490	28.0	95.5
神奈川	290	93.5	600	340	5,310	20.4	101.4
新潟	2,550	89.2	17,400	11,100	13,100	12.0	92.7
富山	190	90.5	1,360	510	6,270	40.2	100.7
石川	360	94.7	2,030	1,440	3,220	14.6	89.9
福井	140	100.0	1,980	1,250	4,050	43.1	102.9
山梨	450	83.3	6,600	1,700	5,800	27.6	91.2
長野	4,450	92.7	25,400	12,600	36,000	13.8	100.5
岐阜	2,420	91.0	24,900	12,800	13,800	16.0	97.7
静岡	1,120	96.6	8,510	5,200	29,700	34.1	100.5
愛知	1,170	95.9	8,900	5,060	49,800	50.2	104.8
三重	700	95.9	19,000	12,900	9,930	41.4	105.1
滋賀	260	96.3	6,590	3,070	12,500	73.5	104.9
京都	760	90.5	6,270	4,180	2,630	11.7	94.5
大阪	130	92.9	2,570	1,980	2,610	39.8	95.7
兵庫	7,630	94.9	39,900	24,600	20,100	7.9	98.4
奈良	170	89.5	1,990	1,600	1,440	20.1	115.5
和歌山	280	100.0	2,620	900	6,290	31.8	101.8
鳥取	4,100	87.4	17,000	12,600	11,000	6.8	96.9
島根	11,000	94.8	37,800	28,200	7,800	4.1	96.2
岡山	6,140	90.6	26,400	18,200	14,600	6.7	96.0
広島	6,510	92.9	29,900	22,200	10,800	6.3	96.4
山口	3,510	90.9	17,200	10,500	6,770	6.8	97.6
徳島	2,400	95.2	9,540	5,900	23,900	13.9	103.7
香川	2,440	90.0	17,400	11,400	14,200	13.0	100.6
愛媛	2,010	94.8	12,000	6,030	17,700	14.8	100.3
高知	1,740	89.2	9,190	6,160	1,890	6.4	94.9
福岡	790	97.5	10,700	3,190	21,700	41.1	100.3
佐賀	2,680	98.2	30,100	16,200	11,700	15.6	106.9
長崎	14,000	97.9	74,500	49,100	12,500	6.2	100.2
熊本	16,500	96.5	98,000	65,000	41,700	8.5	99.1
大分	9,160	93.8	61,300	38,100	14,700	8.3	97.6
宮崎	30,400	95.9	191,700	140,100	21,700	7.0	100.0
鹿児島	40,900	94.5	242,000	159,900	27,000	6.6	100.4
沖縄	4,880	96.1	39,900	26,800	1,160	8.4	95.8

注：肉用種とは、乳用種を除くすべての肉用牛をいう。

あ　か　牛

（第57号）



1986・10

目　　次

○　あか牛の改良と増頭……会長　續　　省三……2

○　会　　報……4

○　褐毛和種の肥育……九州農試家畜第一研究室長
寺田　隆慶・住尾　善彦*……24
（＊熊本県畜産課）

○　私のあか牛肥育経営……福岡県山門郡瀬高町松田　森　　信繁……34

○　熊本県における子牛市場の動向調査…熊本県畜産物安定基本協会
福山　文男・津留　誠也……46

○　子 牛 市 況……51

あか牛の改良と増頭

会　長　續　省三

○　肉用子牛価格の回復

協会会員の皆様が長い間待ち望んでいました子牛価格の回復は、59年夏を底として上昇に転じ、特に昨年秋期以降は急速に上昇に向って、久しぶりに明るさを取り戻すことができました。

すなわち、55年のピーク時には全国平均で１頭当り39万円から40万円と高水準であったものが、59年６月には21万５千円まで下落してしまいました。その後上昇に転じ、本年８月では34万３千円となっており、また、一部の市場では40万円を越えたという報告もあります。

このような急激な子牛価格の上昇は、第１に円高の影響で輸入飼料が59年夏に比べて25～30％も値下りし、肥育牛１頭当り７～８万円のコスト安になることから肥育農家の高値買いを誘ったこと。第２に現在出荷される肥育牛の素牛購入価格は、20～25万円であり、かなりの収支余裕があるため子牛購買に活気がみられること等によると分析されるところであります。

以上のような価格動向は生産意欲にも敏感に反映し、肉用牛の総飼養頭数は61年２月１日現在259万５千頭で、前年同月に比べ２％増、肉用雌頭数は106万３千頭で前年並となり、雌和牛のと畜が減少し、とくに子取用雌牛の２才以上は65万４千頭と前年同月の４％増となっています。

しかしながら、さらに細かく価格動向を分析すると、本年８月の肉用子牛価格(指定市場)の去勢35万４千円、雌30万８千円でその差４万６千円となっており、繁殖農家の増頭意欲の盛上りが今一歩であると考えられます。

○　あか牛増頭の好機

わが国の牛肉需要は、なお安定的な増大がみられることと、国土資源の維持や地域経済発展のため土地利用型農業の基幹部門として肉用牛を位置づけ、国及び地方において積極的な振興策がとられています。とくに、牛肉の⅔を供給

してきました乳用牛が、牛乳消費の停滞から、今後の伸びが期待し難くなってきました。

これらを受けて、去る３月末に決定されました牛肉の支持価格について、円高に伴う配合飼料価格の大幅な値下げによる生産コスト低下がみられることから、牛肉のうち乳用種の去勢牛肉については、前年より引下げられましたが、去勢和牛肉に関しては前年据置きとされました。さらに、畜産振興事業団の指定助成事業として子牛生産契励事業54億円、肉用牛繁殖基盤緊急強化事業14億円等の各種奨励事業が実施されることとなりました。

このうち「肉用牛繁殖基盤緊急強化事業」は繁殖雌牛の増頭や子牛生産の担い手の育成を促進し、肉用牛の繁殖基盤を強化することによって肉用牛生産の増大と合理化を図ることを目的としています。

仕組みとしては、繁殖農家が自分の家で生産した雌子牛を保留し、繁殖雌牛を増頭した場合に、１頭当り５万円以内の奨励金が交付されます。また、自己資金などで雌牛を購入し繁殖雌牛を増頭した場合は１頭当り５万円以内の奨励金と「加算奨励金」(県外から購入する場合の輸送費相当) ７千円～１万６千円が交付されます。この事業に参加したい生産者は畜協や農協に申込むことになっていますが、このような事業の活用は、増頭を図る好機といえましょう。

さらに、来年度には水田転作のポスト３期対策と関連した「水田肉用牛等生産条件整備事業」も計画されていますが、単なる増頭でなく、飼料基盤を確立して、低コストの安定生産経営を目指す好機といえましょう。

○　あか牛登録協会業務にご協力を

あか牛の登録頭数は、全国的な雌牛と畜増の影響を受けて減少がみられるものの、皆様のご協力を得て、当初事業計画通り実施しています。

また、本会の目的である優良な血統の保存普及及び形質の改良と能力の向上を図るため「牛枝肉形質測定のための超音波診断装置の開発及びその利用法確立に関する調査研究」を、畜産近代化リース協会委託事業として実施することになりました。この事業により、あか牛の改良速度を急激に速めることが期待できるもので、実施に当って、関係支部の現場で調査が必要になります。

あか牛の改良、増頭、登録という循環で、あか牛生産者の安定発展を図るため、本会は努力していきたいと考えますので、業務にご協力をお願いします。

会　報

○ 監　査　会

4月30日午前10時より、本会事務局において定期監査会を開催した。高田常務理事立会のもとに、監事による昭和60年度事業成績ならびに収支決算、関係書類、諸帳簿の整理状況、その他会務運営全般について監査が実施され、無事終了した。なお、熊本県支部監査も同時に実施された。

○ 正副会長、常務理事懇談会

昭和61年4月25日、熊本市草葉町畜産会館において、正副会長常務理事会議を開催した。

当日は續会長、今村、山部両副会長、高田常務理事が出席され、昭和61年度の事業計画及び収支予算案について審議を行った。

○ 理　事　会

5月13日午後3時より、熊本市千葉城町厚生年金会館において、理事会を開催し、昭和61年度通常総会に提出する議案6件について審議、いずれも原案どおり承認可決された。

○ 昭和61年度通常総会

5月14日午前10時30分より、熊本市草葉町畜産会館において昭和61年度通常総会を開催した。当日は、農林水産省家畜生産課新山課長補佐などの来賓と、各県支部総代、会員など多数の出席のもとに、下記の議案について審議、いずれも原案どおり承認可決された。

1．昭和60年度収支予算の補正案
2．昭和60年度事業成績及び収支決算報告ならびに決算剰余金処分案
3．昭和61年度事業計画及び収支予算案
4．特別積立金の一部繰り出し処分案
5．借入金の最高限度額承認の件
6．役員の補欠選任の件

○　役員補欠選任結果

理事(新任)　藤澤千芳（宮城県支部）
監事(新任)　永村武美（熊本県畜産課長）

○　中央審査委員会小委員会（第１回）

昭和61年４月14日、熊本市草葉町畜産会館と山鹿市鹿本畜産農協を会場に、本年度第１回目の中央審査委員会小委員会（工藤益雄委員長）を開催した。

当日は午前中畜産会館において、あか牛の基本的育種目標と登録審査のあり方について検討するとともに、農家経営の中での肉用牛の位置づけ、復合経営の推奨、有機農業との結びつきについて活発に議論された。午後からは会場を鹿本畜協に移し、特級登録牛などを研究材料にして適正なる栄養状態の判定を行なった。特に過肥牛については、従来以上に厳格に取り扱うこと、好ましい栄養状態を保つためには、厳しい態度で審査にあたるなどで意見が一致した。

なお、当日の出席者は下記の通りである。

◎中央審査委員小委員会
　坂下幹男、寺田隆慶、秦　定、城　光宣、工藤益雄
◎熊本県畜産課
　吉村征彌、松本道夫
◎熊本県支部
　浅田　駿、竹下貞義、工藤四朗、野田真良、高木弘隆、下村昭久、永里哲光

◎本　会

今村　来、山部龍三、松川昭義、児玉一宏、川崎広通

○　中央審査委員会小委員会（第２回）

昭和61年８月１日、熊本市草葉町畜産会館において本年度第２回目の中央審査委員小委員会を開催した。当日は今村、山部両副会長をはじめ６名の委員と熊本県畜産課の吉村主幹が来賓として出席した。

前回に引き続いて、「あか牛の育種目標と審査方法」の審議を中心に開かれ牛の大きさや栄養度の問題、発育曲線の改訂などについて熱心に論議された。その結果、今後は現場などでも会合を開き、さらに検討を進めていくことになった。

昭和60年度事業成績報告書

社団法人　日本あか牛登録協会

１．概　　況

わが国の畜産は、これまでの需要の伸びに支えられて着実な発展をとげてきた。しかし、最近に至り、国民生活における実質所得の伸び悩みや、栄養水準がほぼ上限に達したことなどから伸び率は鈍化してきており、部門によっては生産過剰となっているものもある。

牛肉については、かつての高い伸びはないまでも安定的な増大を示しており現在、国内生産だけでは需要を充足するまでには至っていない。

一方、生産をあずかる農家の経営内容は厳しく、長期的低迷を続けてきた子牛価格のために、増殖とは逆に「牛ばなれ」現象が広まっており、資源の枯渇につながることが憂慮されている。また、近い将来必ず再燃してくるであろう貿易問題ともからめて先行き不安感が根強く、ようやく回復してきた子牛価格の効果も、増産に対する意欲やその積極的行動にはつながっていない。

このような情勢のもとで、本会はあか牛のもつ優れた能力の発掘と改良を図りながら、農業経営の重要な位置づけのために各種事業を推進した。

以下の各項はその成績の大要である。

2．庶務関係

(1) 定期監査

昭和60年5月13日、本会事務所において増本、緒方、梅下各監事出席のもとに実施した。

(2) 理事会

① 昭和60年5月29日、熊本厚生年金会館において開催し、昭和60年度通常総会に提出する議案について審議した。

② 昭和60年10月3日、東京都麻布グリーン会館において第2回目の理事会を開催し、次の事項について審議した。

ア．副会長、常務理事の互選について

イ．中央審査委員会ほか各種委員会の強化について

(3) 正副会長常務理事会（理事懇談会）

昭和61年2月1日、熊本県畜産会館において開催し、会務運営について協議した。

(4) 通常総会

昭和60年5月30日、午前10時30分より熊本県畜産会館において開催し、下記の議案を承認可決した。

① 昭和59年度収支補正予算案

② 昭和59年度事業成績及び収支決算報告ならびに決算剰余金処分案

③ 借入金の最高限度額承認に関する件

④ 昭和60年度事業計画及び収支予算案

⑤ 役員改選の件

(5) 役員改選結果

会　　長　績　省三

副 会 長　今村　来、山部龍三

常務理事　高田昭二郎

理　　事　池本廣志、加藤義孝、佐藤平安、成田廣造、佐藤鉄山
井野口市三郎、田浦　豊、佐野天勇、魚住汎英、城　光宣
市川昭吉、北里達之助、帆保義信、工藤益雄
監　　事　古本太士、本田　博、品田良雄

3．事業成績

(1) 会員の状況

本年度の会員総数は14,449名で、対前年比93.6%にとどまった。

各道県支部別会員数は次の通りである。

道県別	本年度会員数	前年度会員数	道県別	本年度会員数	前年度会員数
北海道	254名	266名	静　岡	63名	65名
秋　田	971	1,084	愛　媛	2	1
宮　城	203	238	長　崎	374	297
群　馬	12	16	対　馬	294	307
長　野	8	22	熊　本	12,268	13,134
合　計　14,449名(15,430名)					

(2) 登録事業

① 登録頭数

58年度から減少傾向にあった登録頭数は、本年度に入っても歯止めがきかずに、ついに過去最低を記録した52、53年当時の水準にまで落ち込んだ。

登録区分別では、高等登録はほぼ前年並み、特級登録の増加による改良効果は見られたものの、繁殖牛の大部分を占める1級登録及び2級登録は大幅に減少した。子牛登記については、対前年比で6.4%減にとどまった。しかし、繁殖めす牛の減少や異常出産の発生などからして、次年度以降、生産頭数の大幅減少は必至と思われる。

各道県支部別成績は次の通りである。

道県別	高等登録	特級登録	1級登録	2級登録	子牛登記	計
北海道		7 (5)	88 (195)	182 (356)	607 (686)	884 (1,242)
秋田	4 (6)	47 (44)	156 (273)	24 (55)	2,220 (2,481)	2,451 (2,859)
宮城		5 (8)	35 (76)	11 (22)	245 (267)	296 (373)
群馬			11 (18)	0 (2)	2 (18)	13 (38)
長野			30 (60)	32 (40)		62 (100)
静岡			29 (34)	11 (7)	51 (99)	91 (140)
愛媛			11 (3)	21 (5)	8 (15)	40 (23)
長崎	1	31 (20)	180 (125)	80 (68)	580 (451)	872 (664)
対馬	2 (1)	18 (8)	62 (34)	20 (41)	408 (443)	510 (527)
熊本	265 (263)	1,462 (1,006)	2,479 (3,075)	104 (289)	29,586 (31,186)	33,896 (35,819)
計	272 (270)	1,570 (1,091)	3,081 (3,893)	485 (885)	33,707 (35,646)	39,115 (41,785)
前年比	100.7%	143.9%	79.1%	54.8%	94.6%	93.6%

注：(　　) 内は前年度頭数

② 中央審査委員会　(昭和60年11月27日，熊本市)

同　小委員会　(昭和61年2月28日，熊本市)

(協議事項)

○ 登録規程の改正について

○ 審査細則の追加について

○ 登録審査の方法（栄養度の判定）

③ 過去2年間にわたって取り組んできた高等登録の資格条件を中心とし

た登録規程の改正問題については、中央審査委員会の最終審議を経て成案が得られたので、昭和61年３月12日付で農林水産大臣あてに登録規程の変更申請書を提出した。

④　コンピューターによる事務体制を確立し、登録証明書の迅速なる発行、各種データの分析を行った。

⑤　種雄牛及びめす牛の発育曲線改訂については、前年度と同様に測定資料の収集にあたった。発育曲線の改版は次年度に持ち越した。

(3)　育種改良事業

①　集団育種推進事業、産肉能力平準化事業、その他の種畜選抜事業に対しては、その事業主体である関係機関とタイアップしながら優良種畜の選抜にあたった。

②　経済肥育を中心とした肥育データの収集を行い、経済性について種雄牛別等の各要因別に分析し、あか牛のもつ有利性を追求した。

③　血統の厳正さを保つために、血液型の任意調査による親子鑑定を実施した。

(4)　普及指導事業

①　全国研究会の開催

本年度は従来のブロック別研究会を統合し、あか牛全国研究会として開催した。

期　日：昭和60年11月26日～29日

場　所：熊本県畜産流通センター　他２会場

（研究会の内容）

○　スキャンニングスコープによる肉牛生体観察

○　子牛の飼料給与体系及び育成牛の栄養度

○　めす牛の系統造成の進め方

○　枝肉の格付け

②　技術者養成高等研修会

技術者養成を目的として高等研修会を開催した。

期　日：昭和61年３月27日～29日

場　所：熊本県畜産会館、畜産試験場ほか

参加者：70名

③　各県支部が主催した研究会、研修会等に講師を派遣するとともに、その運営に協力した。

北海道支部研究会、静岡県支部研修会、長崎県支部審査協議会
対馬支部共進会、熊本県支部各種研究会・講習会

④　農林水産祭へのあか牛出品、ビーフフェアへの協賛

第24回農林水産祭にあか牛を展示出品し、普及宣伝活動を展開した。また、熊本県が東京都を中心として開催した「ビーフフェア」に協賛し、あか牛牛肉の消費拡大の宣伝に努め、同時にアンケートによる消費動向を調査した。

(5)　組織対策事業

支部の活動及び会員の各種集い（生産小組合等）に対しては積極的に協力参画し、組織の強化に努めた。

(6)　刊行事業

機関誌「あか牛」第55号、第56号、会報「あか牛だより」及び登録簿第28巻を刊行し、それぞれ関係先に配付した。

(7)　表彰事業

①　下記の各種共進会に対し、それぞれ副賞を贈呈して上位入賞牛を表彰した。

北海道道南畜産共進会
秋田県畜産共進会、同枝肉共進会
宮城県仙台牛共進会
群馬県繁殖和牛共進会
静岡県畜産共進会、同枝肉共進会
福岡県肉畜共進会

対馬和牛共進会

長崎県島原地区あか牛共進会

熊本県畜産共進会

その他、各種共進会、共励会、品評会

② 特別功労牛の表彰

ア．10頭以上生産し改良増殖に貢献したもの

イ．１級登録又は特級登録牛を５頭以上生産し改良増殖に貢献したもの

(8) 補助事業（地方競馬全国協会）

① あか牛改良推進全国研究会

期　日：昭和60年11月26日～29日

場　所：熊本市、菊池市、菊池郡七城町

② あか牛技術者養成高等研修会

期　日：昭和61年３月27日～29日

場　所：熊本市、菊池郡合志町、七城町

(9) 受託事業

① 計画交配推進調査事業（熊本県委託）

集団育種事業の補完的な事業として、計画交配のあり方について検討するとともに、基礎雌牛の選抜、血統分析、能力等を調査した。

② 効率的牛肉生産のための改良及び肥育体系推進事業（日食協委託）

ア．肥育技術体系作成のための資料収集

イ．牛肉消費動向調査

ウ．消費普及啓蒙（ビーフフェア）

昭和60年度収支決算書

社団法人　日本あか牛登録協会
昭和60年４月１日から
昭和61年３月31日まで

1. 収入総額　98,869,411円
2. 支出総額　95,026,820円
3. 収支差引額　3,842,591円

収入の部				
科目（款項目）	予算額（補正）円	決算額 円	比較増減 円	備考
1.会費	14,500,000	14,547,000	47,000	1,000円×14,547名 59年 91名 60年14,449名 61年 7名
2.登録料	64,620,000	63,984,400	△ 635,600	
高等登録料	1,620,000	1,644,000	24,000	12,000円×２件 6,000円×270件
特級登録料	5,500,000	7,935,000	2,435,000	10,000円×17件 5,000円×1,553件
１級登録料	15,600,000	12,352,000	3,248,000	8,000円×７件 4,000円×3,074件
２級登録料	2,100,000	1,455,000	△ 645,000	3,000円×485件
月齢超過料	200,000	150,000	△ 50,000	1,000円×150件
子牛登記料	39,600,000	40,448,400	848,400	1,200円×33,707件
3.証明料	403,000	381,600	△ 21,400	
移動証明料	300,000	291,600	△ 8,400	300円×972件
再交付料	100,000	90,000	△ 10,000	1,000円×90件
書換料	3,000	0	△ 3,000	
4.雑収入	100,000	72,321	△ 27,679	
雑収入	50,000	52,721	2,721	
刊行物頒布代	40,000	19,600	△ 20,400	
寄付金	10,000	0	△ 10,000	

5.受　入　金	4,000,000	4,174,423	174,423	熊本県支部より
6.助　成　金	1,900,000	1,644,000	△ 256,000	地方競馬全国協会
7.受　託　金	7,000,000	6,988,989	△ 11,011	熊本県、日食協
8.積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	減価償却積立金
9.繰　越　金	6,076,678	6,076,678	0	前年度からの繰り越し
合　計	99,599,678	98,869,411	△ 730,267	

支　出　の　部

科目（款項目）	予算額（補正）円	決算額 円	比較増減 円	備考
1.管理事務費	28,900,000	27,290,869	△ 1,609,131	
1.人　件　費	19,200,000	18,294,357	△ 905,643	
役員報酬	1,500,000	820,000	△ 680,000	
役員退任慰労金	500,000	500,000	0	前会長へ
職員給料	9,100,000	9,014,400	△ 85,600	専任4名
諸手当	6,100,000	6,028,045	△ 71,955	賞与、諸手当
福利厚生費	1,300,000	1,246,032	△ 53,968	年金、保険の事業主負担分
旅費交通費	700,000	685,880	△ 14,120	
2.事　務　費	5,700,000	5,309,663	△ 390,337	
備品費	100,000	0	△ 100,000	
消耗品費	300,000	328,180	28,180	
通信運搬費	400,000	411,800	11,800	
印刷費	200,000	106,000	△ 94,000	
事務機リース料	500,000	443,960	△ 56,040	コンピューター、電子コピー
賃借料	1,410,000	1,403,040	△ 6,960	事務所、車庫
光熱水料費	240,000	243,593	△ 3,593	

	車輌費	1,200,000	1,121,171	△ 78,829	車輌更新、ガソリン代
	公租公課	200,000	134,450	△ 65,550	自動車税、法人住民税
	保険料	100,000	77,170	△ 22,830	自動車保険
	負担金	350,000	345,000	△ 5,000	中畜、肉牛協会他
	雑費	700,000	695,299	△ 4,701	
3.会議費		4,000,000	3,686,849	△ 313,151	
	役員会費	3,000,000	2,925,593	△ 74,407	
	総会総代会費	1,000,000	761,256	△ 238,744	
2.事業費		17,220,000	14,540,951	△ 2,679,049	
1.登録事業費		1,900,000	1,851,155	△ 48,845	
	審査費	200,000	185,786	△ 14,214	
	証明書発行費	900,000	1,258,000	358,000	
	審査委員費及専門委員会費	800,000	407,369	△ 392,631	
2.育種改良事業費		1,500,000	517,701	△ 982,299	
	育種事業推進費	500,000	82,380	△ 417,620	
	血液型検査推進費	300,000	237,000	△ 63,000	
	改良調査費	200,000	90,773	△ 109,227	
	産肉性調査推進費	500,000	107,548	△ 392,452	
3.普及事業費		2,200,000	1,517,948	△ 682,052	
	全国ブロック研究会費	800,000	769,703	△ 30,297	
	普及推進費	500,000	170,800	△ 329,200	
	研究会講習会費	500,000	254,752	△ 245,248	
	宣伝費食糧費	400,000	322,693	△ 77,307	
4.組織対策費		900,000	271,620	△ 628,380	
	支部連絡指導費	600,000	104,280	△ 495,720	
	中央連絡業務費	300,000	167,340	△ 132,660	
5.刊行事業費		1,270,000	1,212,200	△ 57,800	

	登録簿刊行費	270,000	270,000	0	
	機関誌刊行費	800,000	752,200	△ 47,800	
	会報発行費	200,000	190,000	△ 10,000	
6.褒賞費		550,000	535,898	△ 14,102	
7.補助事業費		1,900,000	1,645,440	△ 254,560	
	改良推進全国研究会費	1,300,000	1,219,620	△ 80,380	
	技術者養成高等講習会費	600,000	425,820	△ 174,180	
8.受託事業		7,000,000	6,988,989	△ 11,011	
	計画交配推進調査費	2,000,000	1,989,000	△ 11,000	熊本県
	低コスト牛肉生産情報収集調査費	5,000,000	4,999,989	△ 11	日本食肉協議会
3.支部交付金		52,802,000	52,595,000	△ 207,000	
	会費支部公付金	2,900,000	2,909,400	9,400	
	登録料支部交付金	49,610,000	49,406,300	△ 203,700	
	証明料支部交付金	292,000	279,300	△ 12,700	
4.積立金		600,000	600,000	0	
	職員退職給与積立金	500,000	500,000	0	
	減価償却積立金	100,000	100,000	0	
5.予備費		77,678	0	△ 77,678	
合計		99,599,678	95,026,820	△ 4,572,858	

決算剰余金3,842,591円は下記の通り処分する。

昭和61年度一般会計へ繰り越し3,842,591円

昭和61年度事業計画

社団法人　日本あか牛登録協会

長期低迷状態からようやく脱した子牛価格によって、生産農家の顔にもいくらか明るさがよみがえってきた。しかし、激減している繁殖めす牛を原状回復させるには、かなりの時間と労苦がかかるものと思われる。また、最近の急激な円高からにわかに再燃してきた貿易問題をはじめとして、肉用牛をとりまく環境は一段と厳しさを増している。

このような情勢のもとで、本会は、ややもすれば忘れがちな土地利用型農業の原点に戻って、家畜の必要性を強調する一方、国民一般が求める牛肉生産の方向で改良増殖を図りながら、農家経営の安定向上に努力したい。

また、本会の運営面においては、会員数や登録頭数の落ち込みにより収入の減少が予想されるが、会員に直接負担増となる料金改定は本年度も見送ることにし各関係機関等の支援を受けながら効率的な事業推進を図っていきたい。

本年度の主な事業内容は下記の通りである。

1．会 員 数

協会運営の基礎となる会員数は、本年度は14,500名を目標として諸事業を推進する。

2．登録事業

(1)　登録登記頭数は、前年度で過去最低の水準にまで落ち込んでいるので、この減少傾向に何としても歯止めを打つよう衆知を集めて努力する。本年度の目標頭数は次の通りである。

高等登録	300頭
特級登録	1,600頭
1級登録	3,000頭
2級登録	400頭

子牛登記　　30,000頭

(2) 高等登録については新しい規準に基づいて実施する。

(3) 登録受審時の過肥を戒め、繁殖牛として適正な栄養管理の指導に努める。

(4) 事務の合理化を図り、証明書類の迅速なる交付に努める。また、各種資料の集計分析とその結果のフィードバックに努める。

(5) 発育曲線の改訂

(6) 子牛登記についての鼻紋採取の完全実施

3．育種改良事業

(1) 集団育種推進事業、産肉能力平準化事業及び産肉能力検定事業（現場検定を含む）に対しては、関係機関と連携をとりながら、資料の収集・分析に努め、優秀な種畜の選抜にあたる。

(2) 各種肥育データの収集と分析を行う。

(3) 中央審査委員会を開催し、育種改良の基本について検討する。

(4) 血液型検査により血統をより明確にしていく。

(5) 繁殖めす牛の生涯生産能力を調査し、優れた系統の選抜に努める。

4．普及指導事業

(1) 全国研究会を開催し、あか牛の改良技術と普及対策について検討する。

(2) 登録事務の徹底を図るために、事務担当者の研修会を開催する。

(3) 枝肉共励会を開催し、改良の進度を確かめ、又市場性の向上に努める。

(4) 各県支部、郡支部（支所）が主催する研究会、講習会等の行事には積極的に協力し、また、会員との融和と連携を図るなど、きめ細かい普及指導事業を実施する。

5．組織対策事業

支部組織を中心とした組織対策には積極的に対応するとともに、巡回指導等を通じて連携を密にしていきたい。

6．刊行事業

登録簿、機関誌「あか牛」、会報等を刊行する。

7．表彰事業

共進会等での優秀牛の表彰と、特別功労牛の表彰を実施する。

8．補助事業

地方競馬全国協会に対して、次の事業を補助申請する。

(1) あか牛改良推進全国研究会（継続事業）

また、肉牛の生体から肉質の判定を行うため、スキャニングスコープ（超音波診断器）の研究開発について、畜産近代化リース協会の調査研究事業の中での実施を検討中である。

9．受託事業

前年度に続いて、熊本県及び日本食肉協議会からの受託事業を実施する予定である。

(1) 計画交配推進調査事業（熊本県）

(2) 効率的牛肉生産体系等事業（日食協）

昭和61年度収支予算書

社団法人　日本あか牛登録協会
昭和61年４月１日から
昭和62年３月31日まで

1.　収入総額　　92,745,591円
2.　支出総額　　92,745,591円

収入の部				
科目（款項目）	予算額 円	前年度予算額 円	比較増減 円	
1.会費	14,500,000	14,500,000	0	1,000円×14,500名
2.登録料	59,200,000	64,620,000	△ 5,420,000	
高等登録料	1,800,000	1,620,000	180,000	6,000円×300件
特級登録料	8,000,000	5,500,000	2,500,000	5,000円×1,600件
1級登録料	12,000,000	15,600,000	△ 3,600,000	4,000円×3,000件
2級登録料	1,200,000	2,100,000	△ 900,000	3,000円×400件
月齢超過料	200,000	200,000	0	1,000円×200件
子牛登記料	36,000,000	39,600,000	△ 3,600,000	1,200円×30,000件
3.証明料	403,000	403,000	0	
移動証明料	300,000	300,000	0	300円×1,000件
再交付料	100,000	100,000	0	1,000円×100件
書換料	3,000	3,000	0	300円×10件
4.雑収入	100,000	100,000	0	
雑収入	50,000	50,000	0	
刊行物頒布代	40,000	40,000	0	
寄付金	10,000	10,000	0	
5.受入金	5,000,000	4,000,000	1,000,000	熊本県支部より

6.助　成　金	1,700,000	1,900,000	△　200,000	地方競馬全国協会
7.受　託　金	7,000,000	7,000,000	0	熊本県、日食協
8.積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	特別積立金より
9.繰　越　金	3,842,591	6,076,678	△ 2,234,087	
合　計	92,745,591	99,599,678	△ 6,854,087	

支　出　の　部

科目（款項目）	予算額 円	前年度予算額 円	比較増減 円	備考
1.管理事務費	26,990,000	28,900,000	△ 1,910,000	
1.人　件　費	19,400,000	19,200,000	200,000	
役員報酬	1,500,000	1,500,000	0	
役員退任慰労金	0	500,000	△　500,000	
職員給料	9,500,000	9,100,000	400,000	専任4名
諸手当	6,400,000	6,100,000	300,000	賞与、諸手当
福利厚生費	1,400,000	1,300,000	100,000	社会保険
旅費交通費	600,000	700,000	△　100,000	
2.事　務　費	4,590,000	5,700,000	△ 1,110,000	
備品費	100,000	100,000	0	
消耗品費	300,000	300,000	0	
通信運搬費	300,000	400,000	△　100,000	
印刷費	100,000	200,000	△　100,000	
事務機リース料	500,000	500,000	0	
賃借料	1,400,000	1,410,000	△　10,000	事務所、車庫
光熱水料費	240,000	240,000	0	
車輌費	300,000	1,200,000	△　900,000	

	公租公課	200,000	200,000	0	
	保険料	100,000	100,000	0	
	負担金	350,000	350,000	0	中畜 全国肉用牛協会他
	雑費	700,000	700,000	0	
3.会議費		3,000,000	4,000,000	△ 1,000,000	
	役員会費	1,500,000	3,000,000	△ 1,500,000	
	総会総代会費	1,500,000	1,000,000	500,000	
2.事業費		17,400,000	17,220,000	180,000	
1.登録事業費		1,900,000	1,900,000	0	
	審査費	200,000	200,000	0	
	証明書発行費	900,000	900,000	0	
	審査委員費及 専門委員会費	800,000	800,000	0	
2.育種改良事業費		2,000,000	1,500,000	500,000	
	育種事業推進費	500,000	500,000	0	
	血液型 検査推進費	300,000	300,000	0	
	改良調査費	200,000	200,000	0	
	産肉性 調査推進費	1,000,000	500,000	500,000	
3.普及事業費		2,400,000	2,200,000	200,000	
	全国ブロック 研究会費	1,000,000	800,000	200,000	
	普及推進費	500,000	500,000	0	
	研究会講習会費	500,000	500,000	0	
	宣伝費食糧費	400,000	400,000	0	
4.組織対策費		600,000	900,000	△ 300,000	
	支部連絡指導費	400,000	600,000	△ 200,000	
	中央連絡業務費	200,000	300,000	△ 100,000	
5.刊行事業費		1,300,000	1,270,000	30,000	
	登録簿刊行費	300,000	270,000	30,000	

	機関誌刊行費	800,000	800,000	0	
	会報発行費	200,000	200,000	0	
6.褒賞費		500,000	550,000	△ 50,000	
7.補助事業費		1,700,000	1,900,000	△ 200,000	地方競馬全国協会
	改良推進全国研究会費	1,700,000	1,300,000	400,000	
	技術者養成高等講習会費	0	600,000	△ 600,000	
8.受託事業		7,000,000	7,000,000	0	
	計画交配推進調査費	2,000,000	2,000,000	0	熊本県
	低コスト牛肉生産情報収集調査費	5,000,000	5,000,000	0	日本食肉協議会
3.支部交付金		45,992,000	52,802,000	△ 6,810,000	
	会費支部交付金	2,900,000	2,900,000	0	
	登録料支部交付金	42,800,000	49,610,000	△ 6,810,000	
	証明料支部交付金	292,000	292,000	0	
4.積立金		1,200,000	600,000	600,000	
	職員退職給与積立金	1,000,000	500,000	500,000	
	減価償却積立金	200,000	100,000	100,000	
5.予備費		1,163,591	77,678	1,085,913	
合計		**92,745,591**	**99,599,678**	**△ 6,854,087**	

褐毛和種の肥育(3)

九州農試畜産部家畜第一研究室
寺田隆慶・住尾善彦*（*熊本県畜産課）

3．体構成と体重

これまでは、肥育が進むとともに体構成がどのような変化を受けるか主に月齢との関連でみてきた。

この項では、体重と体構成との関係を少し考えてみたい。体重は、月齢とともに与える飼料の量や種類、飼料の日給与量のなかに含ませるべき栄養素の構成等を決める主要素である。また、これからの牛肉の消費は脂肪交雑にウエイトを置く従来の嗜好からより赤肉分の多い柔らかい肉が好まれる方向へ変わると考えられており、消費者に喜ばれる牛肉を効率よく生産するためには、肥育牛の体構成が体重とともにどのように変わって行くかを知っておくことが大切である。

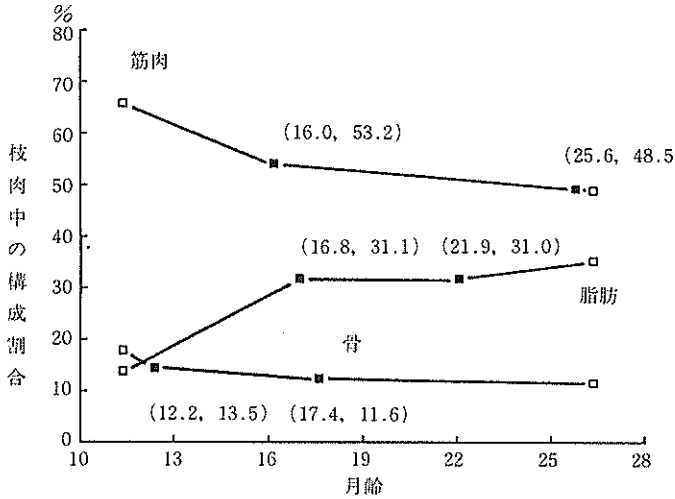


図9　月齢と枝肉構成割合(重量割合，%)

図10には、これまでと同じく体重と枝肉中の筋肉、　脂肪及び骨の構成割合(体構成)の変化を折れ線グラフモデルにあてはめた結果を示した。現在、褐毛和種の去勢牛肥育は体重300kg前後の素牛を650kg前後まで肥育して出荷されているので、図10から、平均的な肥育牛がたどる体構成の変化をうかがい知ることが可能である。

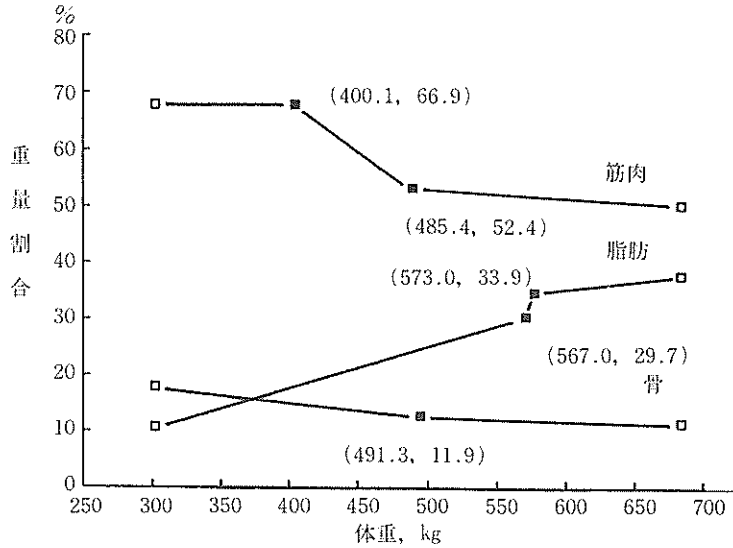


図10　体重と枝肉構成との関係(組織重量割合)

体構成は月齢が進むとともに筋肉と骨の割合が減少し、脂肪の割合が増加することは既にみた（図９）とおりである。図10は、見方を変えて体重との関係をみたものであるが、ここでも体重が大きくなるとともに筋肉と骨の割合が減少し、脂肪の割合が著しく増えた。正常な肥育牛では月齢とともに体重が増えるのでこれは当然の結果である。体重が大きくなると枝肉の主要な組織である筋肉、脂肪及び骨の実重量は増加するが(図５)、これらの三つの組織ではその増加の程度が異なるため、重量割合で表わすと肥育の“当初”と“終了時”では大きな違いが生ずる訳である。体重が約 300 kgのとき(肥育開始時)、枝肉中の筋肉、脂肪と骨の割合(体構成)は概略それぞれ67%、11%及び17%である。これが仕上げ体重である650kgになると筋肉50%、脂肪38%及び骨11%となるか

ら、肥育期間に筋肉と骨の割合が17%と6%減少するのに対して、脂肪の割合は27%も増える計算である。筋肉の割合が顕著な変化を迎える体重は図から400kgと500kgである。骨は体重500kgから大きく変わる。脂肪は体重560～570kgから蓄積が顕著に促進される(増加する)。これらの三つの組織を総合すると、体構成が著しく変わる体重は下記の2点である。第一は、筋肉の第2の折曲点であり、かつ、骨の第1折曲点でもある500kg前後。第二は、脂肪が第1と第2の折曲点を迎える体重560～570kg前後である。ここで、第一の変化点とした500kg前後の体重は月齢に対する体重の第1折曲点とも一致することから(図4)、ほぼこの体重までが筋肉や骨という実質的な成長が旺盛に行なわれる生育ステージと考えられる。これより大きい体重になると筋肉、骨といった実質的な成長が衰え、筋肉や骨の増加よりも脂肪の蓄積(増加)が盛んに行なわれるステージへと変わる。脂肪は筋肉よりも単位重量当りのカロリー含有量が多いところから、当然、単位増体当りに必要とする飼料は多くなる。したがって、この頃になると飼料効率が急速に低下する。この時点からさらに長期にわたって、特に図4に示した第2折曲点以降(645kg)までも飼養しようとするときは、改めて仕上げ目標を設定し直す必要がある。また、体重500kg前後を境として増体の

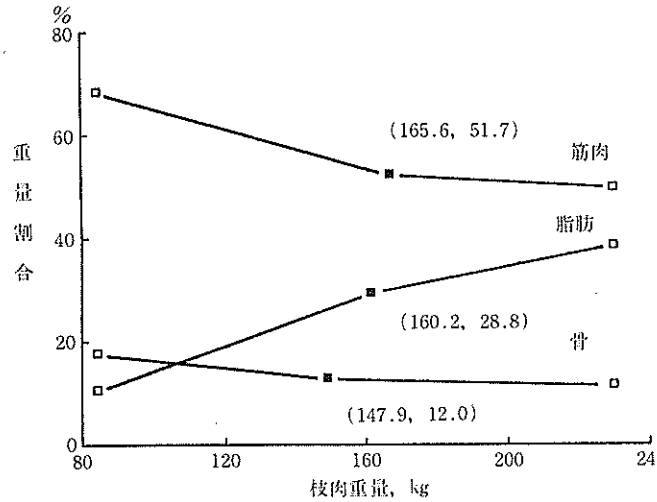


図11　枝肉重量と枝肉構成との関係(組織重量割合)

中味が変わるのであるから、体内の代謝系も相当の変化がおこり、増体に必要とする栄養素も変わる。これまでの高蛋白・中熱量飼料よりも低蛋白・高熱量飼料が適するようになる。

体構成の変化を枝肉重量との関係でみると図11のとおりである。体重との場合と違い、筋肉、骨及び脂肪とも２本の直線の組み合わせとして表わせた。折曲点は１個だけ計算された。単位体重当りで表わすと、体重の重さ自体に含まれる各消化管や消化管内容物（主に第一胃内容物であるが）の重さは、体重が大きくなるに従って小さい値をとる方に変わるが、このことも体重と枝肉重量では異なったモデルがあてはめられたゆえんかも知れない。図11によれば、枝肉重量（半）の160kg前後を境にして脂肪が顕著に増加することが読み取れる。枝肉から市販用の肉を整形するとき、脂肪は食肉として必要最少下限を残してトリミングし、捨て去られるので、今後、枝肉中にどの程度の脂肪を含む場合に消費者の好みに合う肉が生産されるか、また、飼料効率を極端に落とさないで肥育を行なうためにはどの程度の体構成（脂肪割合）を目標とすべきかは、最近どの品種でも最も興味がもたれている研究課題である。

現在のわが国の肥育慣行では、枝肉中の脂肪割合は35％前後に達しているも

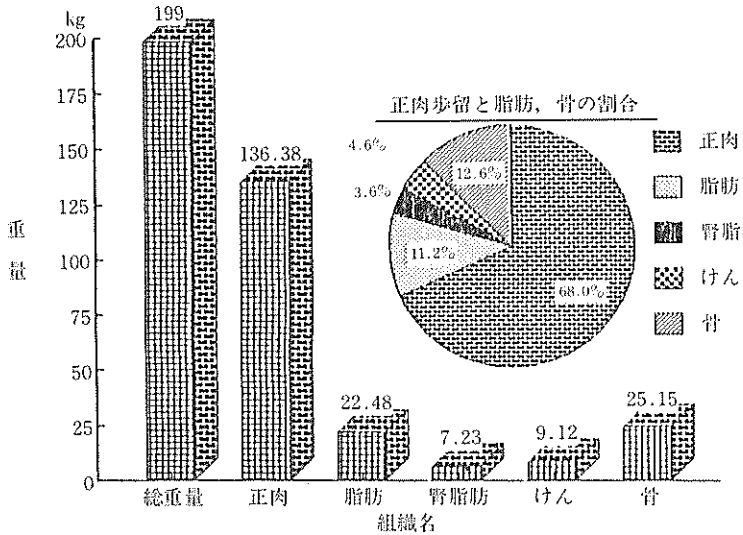


図12　重さ199kgの枝肉の正肉歩留

のと思われる。参考までに、皮下脂肪が極めて少ない枝肉（褐毛和種去勢肥育牛）について、枝肉から商品として販売できる肉の量の歩留まり（正肉）を求めた一例を示すと図12のとおりである。正肉歩留まりは68%であった。これはわが国の平均水準からは相当に高い数値といえる。残りが脂肪(14.8%)、骨(12.6%)及び腱(4.6%)で、いづれも非食用部分である。枝肉中の脂肪割合が増えるとこの非食用部分が必然的に増加するので、消費者のニーズを直接満足させる肉を生産できる枝肉中の脂肪の割合を早くみいだす研究や飼料の給与等飼養管理面から体構成をコントロールする技術を急いで確立する必要がある。

4．肉　　質

ここで取り上げた項目は、枝肉の格付けの際に問題にされる肉質項目のうち脂肪交雑、肉色及びキメ・シマリの３項目で、脂肪の質・色沢は除外した。

(1)　月齢と肉質との関係

材料牛の肉色及びキメ・シマリの判定は格付け基準にしたがって「極上」、「上」、「中」、「並」及び「等外」と官能的に行ったが、本報の計算ではそれ

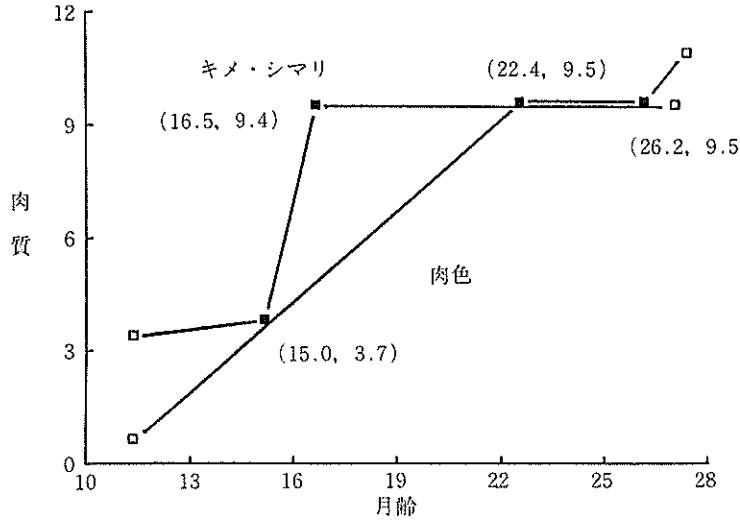


図13　月齢と肉質の関係

ぞれを13、10、7、4及び1とスコアー化して用いた。例えば、「極上」は13、「上⁻」は9という具合である。

図13に、折れ線グラフモデルへのあてはめ結果を基に肉色とキメ・シマリの月齢にともなう変化を示した。図13から、キメ・シマリは肉色よりも若い月齢で褐毛和種としての生理的な恒常状態に達することが分かる。この水準は格付け基準にいう「上」である。図13には併示しなかったが、月齢に対するキメ・シマリの実測値の分布を考慮すると、計算で得られた第1折曲点は余り重要視して考える必要はないと思われるので、キメ・シマリは肥育開始から第2折曲点の約17ヵ月齢まで徐々に良くなって行き、月齢17ヵ月齢前後で格付け基準にいう「上」に相当する恒常状態に至り、これ以後は、月齢が増してもそう評点は変わらない。

これに対して、肉色は肥育開始から第1折曲点のX座標、即ち約22ヵ月齢までは月齢とともに良くなり、約22ヵ月齢での評点は「上」である。この後26ヵ月齢（第2折曲点）まではこの「上」の状態が続くが、26ヵ月齢以後はまた良くなるような傾向がうかがえた。しかし、今回の解析に用いた材料牛は最高月齢でも約27ヵ月齢であり、第2折曲点以降の変化傾向については、今後、高月

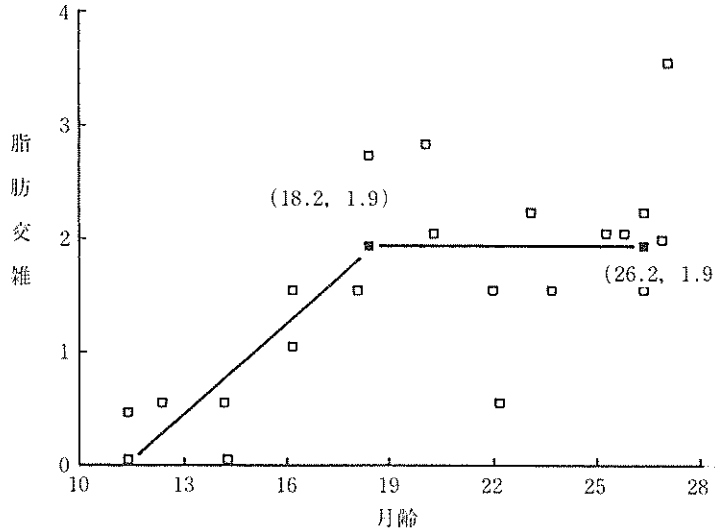


図14　月齢と脂肪交雑との関係

齢牛を集めて検討する必要がある。

次に、脂肪交雑である。脂肪交雑は枝肉の格付けを規定する最大の要因であるところから一般の関心も高い。図14に、今回の解析結果とともに材料牛の脂肪交雑の散布図（図中の白抜き□：以下の図でも同じ）を示した。散布図から材料牛の脂肪交雑が広く分布することが読み取れる。折れ線グラフモデルの解析結果は興味あるもので、折曲点が２つあった。脂肪交雑は、肥育開始から18ヵ月齢まで月齢とともに直線的に良くなるが、この間は、実測値が求めた実験式の近くに分布しているのでどの個体もがたどる生理的な変化と考えられる。18ヵ月齢での脂肪交雑は約２である。これから第２折曲点である26ヵ月齢まで脂肪交雑の評点は変わらない。が、約26ヵ月齢後はまた良くなることが示唆された。しかし、第２折曲点から後は実験式から遠く離れた実測値の分布が増え特に月齢との関係も認められないところから第２折曲点以後の脂肪交雑の入り具合は月齢というよりも、むしろ、個体のもつ生得の能力（遺伝的能力）に依存するところが大きいと考えられる。また、26ヵ月齢以後の脂肪交雑の趨勢については、肉色と同様に、今後の高月齢の材料牛を集め、改めて検討する必要がある。

今回の解析で得られたように18ヵ月齢以後の脂肪交雑が、個体の個々がもつ遺伝的能力に依存するとすれば、仮に、超音波断層診断機のようなハイテク機器を用いて非破壊的に18ヵ月齢前後で脂肪交雑の状態を生体で推定し、その結果が優れた個体は「上物」を期待する長期肥育に、そうでない牛は短期の経済肥育へと振り分けると一括して「上物」を狙うような長期肥育が回避できる。

肉質を月齢基準でみるとき、褐毛和種が恒常状態の肉質を示す月齢はキメ・シマリ、肉色及び脂肪交雑の各形質でそれぞれ異なることは、これまでにみてきたとおりである。そこで、ここで取り上げた３つの形質を総合すると、褐毛和種がその本来的な肉質に達する月齢は、３形質の中で一番恒常状態に達するのが遅い肉色が恒常状態に達する約22ヵ月齢と考えるべきである。

(2) 体重と肉質との関係

体重と肉質との関係は図15、16及17のとおりである。肉色とキメ・シマリは月齢のときと同じく評点をスコアー化して計算に供した。その結果、肉色とキ

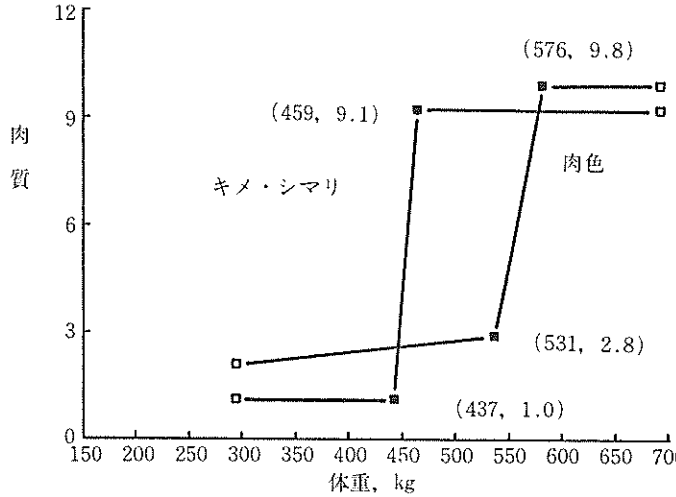


図15　体重と肉質との関係

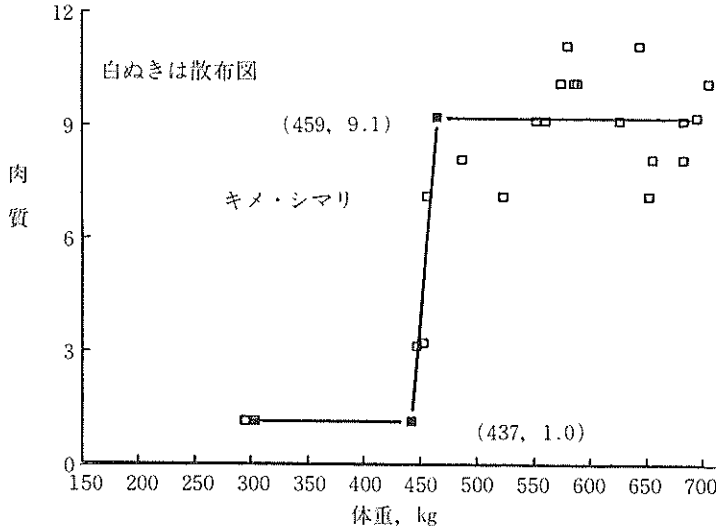


図16　体重と肉質との関係

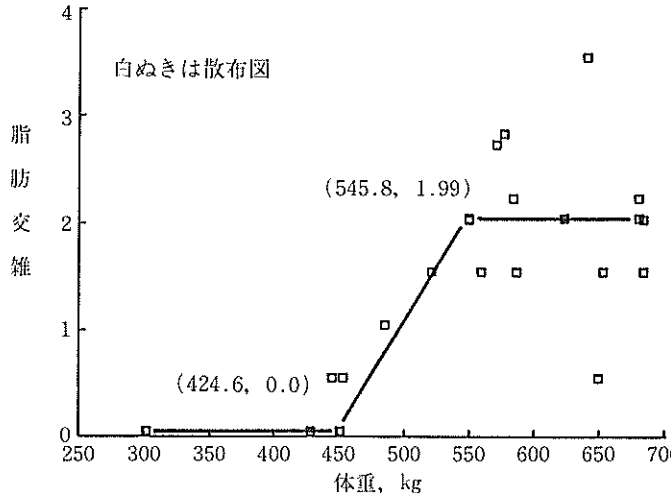


図17　体重と脂肪交雑との関係

メ・シマリは体重に対してZ状の変化を示し、これらの二つの形質がともに体重の極めて狭い範囲内で急激な変化を描く実験式があてはめられた。しかし、キメ・シマリでいえば体重440から460kg、肉色では530から580kgというわずか20～50kgの体重差によって「並」から「上」へと肉質が変わるような変化が筋肉組織内に生ずるとは考え難い。そこで、キメ・シマリの実測値の散布図と実験式との関係（図15）を少し詳しく検討してみたい。キメ・シマリの実測値の分布は、第2折曲点よりも重たい体重ではX軸に平行である実験式の周辺によく分布している。ところが、第2折曲点よりも小さい体重のうち、450から500kgの体重の牛のなかで体重に比べ評点が極度に低い分布が2頭いて、これが実験式の計算では強く強調され、Z状の実験式があてはめられたと考えられる。したがって、このことを考慮に入れると、キメ・シマリは肥育開始から第2折曲点がある体重460kg前後まで体重が大きくなるにしたがって良好となると考える方が自然である。また、460kg前後よりも重たい体重での評点については、脂肪交雑と月齢との関係と同じく、基本的には個体のもつ遺伝的能力に依存して

いると考えるべきであろう。肉色もキメ・シマリと同傾向の実験式が得られたことは先にふれたとおりである。しかし、キメ・シマリと同様に実測値の分布（図示していない）を勘案すると、肥育開始から第２折曲点である体重580kg前後までは体重の増加とともに改善され、その後は個々の個体のもつ能力によって決まると考えた方がよい。

最後に、脂肪交雑は図17に示したように430から560kgまでは体重とともに良好となる。実測値も求めた実験式の回わりによく分布するので、この間の変化は体重の増加に従う生理的なものと解釈される。ところが、第２折曲点以後の体重では、実験式がＸ軸と平行となり、実測値の分布も実験式から遠く離れた個体も多くなるので、このような重たい体重になると体重が第一義的な脂肪交雑の決定因子ではないことが自明である。月齢もまた第２折曲点以降では脂肪交雑の第一義的な決定要因ではないことは既に述べたとおりである。

体重に対する恒常状態となる（求めた実験式がＸ軸と平行となる）体重は、キメ・シマリが最も小さく459.0kg、次が脂肪交雑の545.8kg、最も重たいのが肉色の576kgで脂肪交雑よりもわずかに大きい。このように、肥育された褐毛和種去勢牛がモードとして恒常的な肉質を示すのは、肉色が恒常状態となる576kg以後といえる。また、前に述べたように恒常的な肉質を示す月齢が約22ヵ月齢であるところから、月齢が22ヵ月齢で体重が約600kgに達すると、褐毛和種去勢牛は品種がもつ本来的な肉質を発揮すると考えてよい。このときの肉質評点は日本枝肉格付規格にいう「上」に類似する。

（以下次号）

〔訂正とお詫び〕

前号で図９が落丁しておりました。深くお詫びいたしますとともに、前号の18Ｐの最下行の図８を図９と訂正させて頂きます。

私のあか牛肥育経営

福岡県山門郡瀬高町松田
森　　信　繁

1．地域の概要

私の住む瀬高町は、福岡県の南部に位置し、有明海を望む、筑後平野の純水田地帯であります。

交通は、国道209号線が町の中央部を南北に走っています。それと平行して、東に国鉄鹿児島本線、西に西鉄大牟田線又、近くには九州縦貫高速道路が縦断する等、交通は極めて便利な環境にあります。

また、気候は有明海気象区に属し、年平均温度16.2度（35度～0.4度）と温暖で、降雨量1936㎜と、農業に恵まれた気候条件にあります。

2．経営の概要

(1)　経営土地

土地利用状況は表１の通りです。

自己所有地が36ａと少ないため借地30ａを借り受けています。また、昭和58年から矢部川河川敷草地700ａを10人共同（自己利用分80ａ）で利用しています。

表１　経営土地

区　　分	面積(ａ)	土　地　利　用　状　況
自作地２毛田	36	水稲27ａ、トウモロコシ９ａ、イタリアン36ａ
借　地２毛田	30	トウモロコシ30ａ、イタリアン30ａ
河川敷草地	80	野草利用80ａ、イタリアンａ
牛舎施設	15	

(2)　労働力

家族構成、労働力構成は表２の通りです。

表２　家族構成、労働力構成

区分	年齢	作　業　分　担	農業従事日数	農外従事日数
私	51	肥育牛、水稲、農外	３００	３０
妻	50	家事、肥育牛、農外	１５０	５０
長男	22	農外、肥育牛	６０	２９０
長女	16	学生	0	0

農業従事者は、私と妻、長男の３人ですが長男は農外従事が主です。

肥育牛に向けている労働力は(年間2,200時間を1.0人と計算)2.0人です。

将来は、後継者である長男と力を合せて、あか牛肥育経営を続けて行きたいと考えています。

(3)　施設、機械の装備状況

施設、機械の装備状況は表３の通りです。

乗用トラクター２台とハーベスタ(中古)、ボブキャット、小型モーアは自己所有ですが、57年購入のヘイメーカ、自走式ベーラ、トレーラは４人の共同利用として、設備投資を極力抑えるよう心掛けています。

表３　施設、機械の装備状況

施　設、機　器　具			機械、器具および車両		
畜　舎	285平方m	52年建築	乗用トラクター	26ＰＳ	52年購入
畜　舎	29	52年建築	乗用トラクター	42ＰＳ	59年購入
畜　舎	254	57年建築	フロントローダ	１台	52年購入
飼料庫	53	52年建築	ボブキャット	１台	58年購入
堆肥舎	25	59年建築	ハーベスタ	１台	58年購入
サイロ	10立方m	59年建築	歩行式モア	１台	51年購入
サイロ	10　〃	59年建築	軽トラック	１台	57年購入
			軽トラック	１台	59年購入
			ヘイメーカ共同	１台	57年購入
			ベーラ　　共同	１台	57年購入
			トレーラ　共同	１台	57年購入

牛舎および施設の配置は図２の通りです。

牛舎横には２本のＦＲＰサイロ、簡易サイロを設置し、堆肥舎も隣接しています。

また、牛舎２階には、稲ワラ、牧乾草を収納(10ha分)することができます。

毎日の作業ですので１ヶ所に集中管理できることは労働力の省力化の意味からも良いことだったと思います。

表４　肥育牛　異動状況

品種、形態		区分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
あか牛	若齢肥育	月初頭数			66	62	66	66	73	66	68	65	76	63	55	67	66.1
		異動	導入頭数		0	12	0	12	0	3	3	13	0	0	16	0	59
			出荷頭数		4	8	0	5	7	1	6	2	13	8	4	0	58
			事故	廃止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		月末頭数			62	66	66	73	66	68	65	76	63	65	67	67	67.0
		月間平均等数			64	64	66	69.5	69.5	67	66.5	70.5	69.5	59	61	67	66.6

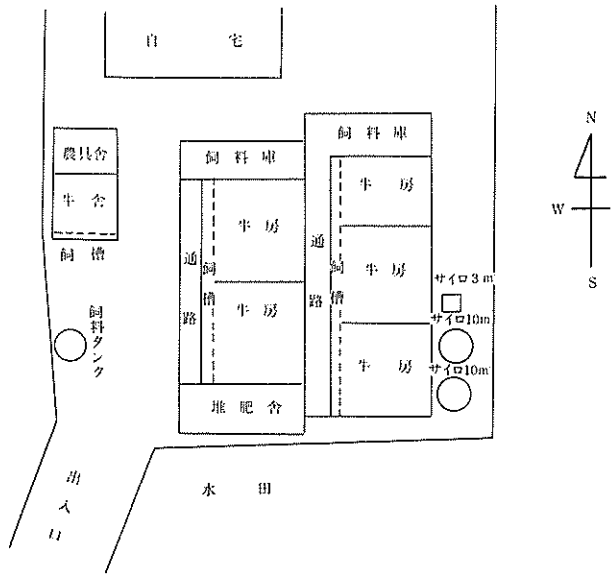


図１　牛舎配置図

(4) 飼養家畜

月別飼養状況は表４の通りです。

もと牛は、あか牛去勢牛を熊本県から全頭、農協を通じ導入しています。

月齢は９～10ヶ月で、生体重260～290kgの肋張りがあって、発育のよい、健康な牛を選んでいます。

年間の肥育状況は、期間内導入が59頭、出荷が58頭です。事故、廃用は皆無でした。なお、出荷牛は体重650kg、12ヶ月肥育を目安にしています。

(5) 資金の調達

借入金状況は表５の通りです。

借入金は、近代化資金が２件で期末残高732.8万円、もと畜預託額が1,576.8万円で総額2,309.6万円になります。

その外に営農勘定が有りますが農協の指導で、出荷毎に再生産のための積立金をしています。この積立金が310.1万円有りますから都合1,999.5万円が借入金と考えています。

肥育経営ではもと畜代、飼料代、畜舎施設、機械器具等に多額の資金を必要としますので資金の利用については、農協指導員の指導により、必要以上の借入れは抑えて、機械の導入等は低利な制度資金を利用しています。

表５　借入金状況

種　　類	近代化資金	近代化資金
借入金額	592万円	200万円
借入年日	57年11月	59年11月
借入先	農　協	農　協
償還期間	10年	６年
支支利率	4.5%	4.5年
使途	畜　舎	トラクタ
期首時元金残高	592万円	200万円
期間内元金償還額	592万円	0万円
(支払利子額)	(23.9万)	0万円
期末時元金残高額	532.8万円	200万円

近代化資金期末残高	732.8万円
もと畜預託額(期末)	1576.8万円
営農積立金	310.1万円
差引借入金額	1999.5万円
肥育牛１頭当たり	30.4万円

種　　類	期　　首	期　　末	期間内支払い利息
もと畜預託額	1594.7万円	1576.8万円	117.4万円

(6) そ の 他

(1) 肥育牛部会活動

ア）共進会

毎年、農協主催主体共進会（肥育牛、育成牛）を10月、枝肉共進会を12月に実施しております。なお、10月に開催されます県肉畜共進会には毎年参加しています。

イ）勉強会

毎月予防注射巡回と併せて飼養管理、経営管理等を話題に勉強会を開いています。

ウ）肥育試験

昭和50年より、肥育牛給与試験を実施してきました。試行錯誤の毎日でしたが、成績データも集まって来ましたし、なによりも農協の指導と私達部会員との意志疎通に役立ったと思います。なお57年からは私の畜舎で試験を続けています。

(2) 堆肥の利用

ア）堆肥の販売

果樹生産農家に中熱堆肥を140ｔ（１ｔ当たり1000円）14万円販売して喜ばれています。

イ）堆肥の交換

稲ワラ８ha(10ａ当たり３ｔ)、スイートコーン180ａ(10ａ当たり4ｔ)と交換しています。

ウ）堆肥の譲渡

堆肥は、野菜農家（レタス、ナスビ等）が土壌改良目的で利用しています。そのおかげか、レタスの残菜を頂くことがあります。

現在、堆肥の利用は水稲５％、販売、交換に40％、譲渡55％に成ると思います。今後は堆肥の交換、特にスイートコーンとの交換を増やして行こうと考えています。

3．経営の推移

(1) 拡大の経緯

昭和40年、あか牛２頭を導入して肥育を始めました。それ以前は水稲と木工業（樽加工）を主に経営を続けていました。

昭和46年畜舎（トタン葺）を建築、肥育20頭規模に増頭し、木工業の方は辞めました。昭和52年畜舎改築（木造瓦葺、２階建）肥育牛32頭に増頭、57年畜舎建築（木造瓦葺１部２階）肥育牛65頭に増頭、現在に至っています。

(2) 農家所得

昭和40年代は木工業と水稲、50年前半は農外、肥育牛、水稲の順ですが現在は肥育牛、農外、水稲の順になっております。

昭和59年度の農家所得割合は表６の通りです。

表６　59年度農家所得

区　分	生産出荷	粗収入額(万円)	所得率%	所得額(万円)	構成率%
肥育牛	58頭	3472.2	18.9	654.7	67
水　稲	27 a	48.6	55.0	26.7	3
農外収入	－	340.0	85.3	290.0	30
合　計	－	－	－	971.4	100

4．自給飼料の生産

(1) 生産基盤の確保、拡大状況

昭和40年代は稲ワラと濃厚飼料が主体で粗飼料生産はありませんでした。

しかし肥育牛も稲ワラばかりに頼らず、良質粗飼料が大切であることに気付きました。

昭和55年に矢部川河川敷10ａを借り、イタリアンを作付しました。その後自作地36ａにイタリアン、基盤整備後の転作田３haを酪農家と共同でシコクビエ（自己分１ha）を作付けする等、粗飼料確保に努力しました。

昭和58年に矢部川河川敷80ａを借りる事ができ、借地30ａも確保することができました。町内のスイートコーンを収集し始めたのもこのころです。

粗飼料の利用も初めは生草利用が中心でしたが、乾草と生草に替つて来まし

た。

最近は、生草給与を減して、乾草とサイレージ中心に考えています。

(2) 裁培調製の合理化

表7　飼料の生産、利用

番号	地目	面積(a)	作付作物	作付面積(借地) 夏作	作付面積(借地) 冬作	生産・利用 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総収量 kg (10a)	利用構成(%) 生草(t)	サイレージ	乾草
1	河川敷	50	野菜	(50)				×	―	―	×							15千kg (3千)			15 t 100
	河川敷	50	イタリアン		(50)	―	―	×			○						×	40千 (8千)	20 t 50		20 50
	河川敷	30	イタリアン		(30)	―	―	×			○						×	24千 (8千)			24 100
	河川敷	30	野草	(30)				×	―	―	×							9千 (3千)			9 100
2	水田	9	トウモロコシ	9				○			×	×						1.35千 (15千)		1.35 100	
	水田	9	イタリアン		9	―	×					○					×	7.2千 (8千)	2.16 30		5.04 70
3	水田	27	イタリアン		27	―	×					○					×	21.6千 (8千)	6.48 30		15.1 70
4	水田	30	イタリアン		(30)	―	×					○					×	18千 (6千)			18 100
5	水田	30	トウモロコシ	(30)				○					(水害の為無収穫)					0 (0)			
6	畑	180	スイートコーン	180a 収集					×	―	×							45千 2.5千	30 67	15 33	
7	水田	800	イネワラ		800a 収集							×	―	―	×			40千 0.5千			40 100
イネワラを除く作付け面積計				299a	146a	イネワラを除く総収量計、利用量計												181.0千	58.6	16.3	106
イネワラを除く　利用率(%)																		100	32.4	9.0	58.6

飼料の生産、利用状況は表7の通りです。

実際、給与できる量は、乾草が17.8t（イタリアン、野草、製品歩留90%を見込む)、サイレージが14.7t(トウモロコシ、スイートコーン、製品歩留90%を見込む)、生草が52.7t(イタリアン、スイートコーン製品歩留90%を見込む)となります。生草利用より、サイレージ利用の方が労働の面からも、又肥育牛のためにも良いので今後共、サイレージ利用を高めたいと考えています。

5．肥育方法

(1) 畜舎の衛生

肥育牛にとって、畜舎環境の良否は増体、飼料効率に大きく、影響があると考えます。

敷料の交換時の他に、夏期には特に細菌及び害虫の発生には気を付けています。畜舎の床面、側面はむろんのこと、天井、通路もよく消毒しております。その為畜舎の臭気および害虫の発生はありませんので、牛も静かに反すうできるのだと思います。

(2) 肥育牛の給与体系

私の肥育牛体系は表８の通りです。

59年度は、水害と刈取り時期の雨で飼料給与体系が少し崩れましたが基本は表８の通りです。今後ＦＲＰサイロの購入でこの体系が無理なくできるのではないかと考えています。

表８　私の肥育牛給与体系

肥育形態	肥育前期				肥育中期				肥育後期				計
生後月齢	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
飼育月齢(ヶ月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
目標体重 (kg)	導入体重 280								出荷体重 650				
1日当たり増体量	1.1kg				1.0kg				0.9kg				
自家配合飼料	0	60	90	120	150	180	240	260	270	240	210	180	2,000
フスマ	120	60											180
大麦圧ペン									30	60	120	150	360
乾草	120	120	120	120	120	90	60	60					810
サイレージ	90	90	90	90	90								450
イネワラ	30	30	30	30	30	60	60	60	60	60	60	60	570

飼料給与量

区分	DM(%)	DCP	TDN	給与量(kg)	総DCP量	総TDN量
自家配合飼料	73.8	9.9	62.6	2,000	198.0	1,252.0

フ　ス　マ	87.8	12.2	64.0	180	22.0	115.2
大麦圧ペン	87.5	7.9	73.2	360	28.4	263.5
乾　　草	87.5	5.7	51.5	810	46.2	417.2
サイレージ	17.8	1.3	10.2	450	5.9	45.9
イ ネ ワ ラ	87.7	1.1	38.0	570	6.3	216.6
計				4,370	306.8	2,310.4

栄養比　65.3

ＴＤＮ自給率29.4%

(3) 肥育成績

肥育成績は表９の通りです。

肥育のやり方は、あか牛の特長である早肥、早熟に力点を置いた増体狙いです。

今後は格付割合での中規格を少し増して行こうと考えていますので、肥育試験の結果をみて、飼料給与量、肥育期間、経済性等総合的に検討して行こうと思っています。

表９　肥育成績（昭和59年４月１日より60年３月31日）

区　分	当期販売肉牛							
	販売価額（円）	枝肉価額（円）	着体重（kg）	枝肉重量（kg）	頭数（頭）	１頭平均		
						価　額(円)	体　重(kg)	枝肉量(kg)
若齢肥育	33,349,939	31,936,872	37,440	22,960.9	58	574,999	645.5	395.9

当期販売肉牛分もと牛					当期販売肉牛			
導入価格	市場生体重	頭数	１頭平均		増加額	増体量	１頭平均	
			価　額	体　重			増加額	増体量
14,257,888	16,510	58	245,826	284.7	19,092,051	20,930	329,173	360.9

当期販売肉牛								事故率	
肥育日数	１日平均		平均肥育日数	枝肉単価	枝肉歩留(%)	販売諸経費		対導入頭数	対常時頭数
	増加額	増体量				総　額	１頭平均		
21,379	893	0.979	368.6	1,391	61.3	1,350,373	23,282	0	0

あか牛の格付け割合（59年度K食肉市場調べ）

区　分	K食肉市場	S 農 協	本　人
特　選	0	0	0
極　上	0.1	0	0
上	0.2	0.2	1.7
中	24.8	21.6	24.2
並	74.1	77.9	74.1
格　外	0.8	0.3	0

6．経営収支

経営の収支は表11の通りです。

所得率18.7%、肥育牛1頭当り99,659円の所得になりました。

枝肉単価が平均 1,391円とやや低かったのですが、増体量が約1.0kg、1日平均増加額が893円になったこと。もと牛が比較的に安く購入できたことと飼料費が155千円と低く抑えられたこと等考えられますが、今後は、より自給飼料の増産に勉めコストダウンをすすめて行きたいと思います。

なお、生産原価は表10の通りです。

表10　肉牛平均生産原価

1頭当たり金額(円)

購入飼料費		155,042
自給飼料費		1,855
敷料費		1,845
労働費	雇用労働費	0
	家族労働費	60,583
	計	60,583
もと畜費		245,826
診療・医薬品費		3,322
光熱水費		1,451
機械用燃料油費		1,653
減価償却費		17,641
修繕費		374
小農具、消耗諸材料費		1,847
賃料料金その他		818
費用合計		492,257
副産物価額		2,152
生産原価	肉牛1頭当たり	490,105
	生体1kg当たり	759.3
	枝肉1kg当たり	1,238.0

7．今後の課題と方向

(1) 購入飼料の低減

高品質のサイレージ、乾草を増すことによって濃厚飼料の代替えが可能になると思います。その為には農用地利用増進事業等による期間借地の増加を考えています。

(2) 堆肥流通の合理化

畜産農家と耕種農家との取引は個人ごとに努力しているところですが、取引価格、量に不安定なところがあります。町行政指導として耕種農家の共同堆肥舎建設の気運も高まっていますので、肥育部会としてもこれを、応援して、流通の一元化へもって行きたいと考えています。

(3) 部会活動

後継者が残るのは、安定した経営にあるかと思います。そのためには個人の努力も大切ですが、農協単位、部会単位の活動が大切です。私達は部会を中心に皆が安定した経営ができる様、今後共模索して行きます。

表11　肉用牛経営損益計算書

自　昭和59年4月1日
至　昭和60年3月31日

費目		金額	備考
収益	肉牛販売収入	33,349,939	58頭
	既肥販売収入	140,000	果樹農家販売、登録団地
	その他	1,529,562	肉用牛集約生産基地等
	計	35,019,501	
費用	期首飼養牛評価額	24,402,486	66頭
	肥育もと畜費	13,950,080	59頭
	購入飼料費	10,085,286	
	自給飼料費	120,660	
	1）農場副産物	27,000	自家産イネワラ
	2）肥料費	69,240	
	3）その他	24,420	
	労働費	3,940,825	
	1）雇用労賃	0	
	2）家族労働	3,940,825	4,503.8時間　@875円／時間
	敷料費	120,000	
	診療衛生費	281,370	
	光熱水費	94,368	
	機械用燃料油脂費	107,534	
	機械、器具費	960,393	
	建物、施設費	319,502	
	その他雑費	0	
	期末飼養牛評価額	24,875,813	67頭
	販売原価	29,506,691	
	その他の費用　販売経費	1,350,373	
	共済掛費	0	
	支払利費	1,516,442	
	租税公費	39,200	
	計	2,906,015	
	合計	32,412,706	
所得額		6,547,620	

熊本県における子牛市場の動向調査

熊本県畜産物価格安定基金協会
福　山　文　男・津　留　誠　也

1．過去４年間における子牛市場動向

低迷を続けてきた子牛価格は、60年度に入って回復基調に転じ、61年度の最近ではかなり過熱ぎみの傾向が続いている。これについては、生産頭数減少による素牛不足が大きく関与しているものと思われる。

熊本県畜産物価格安定基金協会では、肉用子牛の市場調査とその分析を昭和57年度より続けており、毎年『肉用子牛の市場調査』として年次報告を出している。

ここに紹介するものは、昭和57年より60年度までの子牛市場の動向についてその概略をとりまとめたものであり、関係者の参考になれば幸いである。

表１　子牛市場成績　　（褐毛和牛）

年度	57年度				58年度			
性別	雌	雄	去	計	雌	雄	去	計
入場頭数	15,323	565	15,929	31,817	15,519	439	16,272	32,230
取引頭数	13,074	542	15,629	29,245	13,877	416	15,979	30,272
出荷日齢(日)	323	290	307	314	326	298	312	318
出荷体重(kg)	293	304	307	301	290	295	307	299
1日当たり増体量(kg)	0.82	0.94	0.90	0.86	0.80	0.88	0.88	0.84
販売価格(円)	270,657	250,511	259,794	264,478	235,866	233,974	248,892	242,716
1kg当り単価(円)	923	824	845	879	813	792	812	812

年度	59年度				60年度			
性別	雌	雄	去	計	雌	雄	去	計
入場頭数	15,461	317	16,752	32,530	14,631	178	15,792	30,601
取引頭数	14,165	299	16,562	31,026	13,635	171	15,650	29,456
出荷日齢(日)	324	300	312	318	321	296	309	315
出荷体重(kg)	291	310	311	302	294	304	313	304
1日当たり増体量(kg)	0.81	0.92	0.89	0.86	0.83	0.92	0.91	0.87
販売価格(円)	229,021	239,853	248,428	239,485	260,948	286,468	291,213	277,176
1kg当り単価(円)	786	775	799	793	886	942	931	911

(1) 入場頭数及び取引頭数

昭和57年度より順調に増えてきた入場頭数は、59年度をピークに減少に転じ、60年度では対前年比94.1%にまで落ち込んでいる。

取引頭数も同様の傾向にあり、入場頭数に対する取引頭数の割合は高くなっている。（57年度91.9%、58年度93.9%、59年度95.4%、60年度96.3%）。

(2) 出荷日齢

年度を通してほとんど変化は見られないものの、子牛価格が下がると出荷日齢がいくぶん長くなる傾向を示している。60年度の平均出荷日齢は 315 日となっている。

(3) 出荷体重

平均値でみると、雌は290kg代、去勢300kg代で年度間には大きな変化はみられないものの、年々やや大きくなる傾向にある。

(4) 1日当り増体量

過去4年間では、58年度が0.84kg（雌・雄・去勢全体の平均値）と最も低い値となっている。これは価格の下落による農家の飼育意欲の低下があるのではないかと思われる。

(5) 販売価格

昭和57年度は雌の平均販売価格は270,657円、去勢259,794円で雌牛が約1万円高かった。しかし価格が低迷した58年、59年は雌子牛の下落が著しく、逆に去勢が高くなっている。この傾向は価格が回復してきた現在においてもなお続いている。これは繁殖素畜としての価値よりも肥育素畜としての価値が優先しているためであり、繁殖生産の魅力が薄れている証拠であるとも言える。

2．昭和60年度における出荷日齢、体重

(1) 出荷時の日齢階層別市場成績

出荷時の日齢については雌、去勢ともに310日～330日の範囲が最も多く全体

表２　日齢別子牛市場成績（熊本県）

（雌）

日齢（日）	取引頭数	%	出荷日齢（日）	出荷体重（kg）	１日当り増体量（kg）	販売価格（円）	１kg当り単価（円）
～120	2	0.0					
121～150							
151～180							
181～210	9	0.1	194	254	1.17	249,889	984
211～240	166	1.2	231	267	1.03	253,024	949
241～270	901	6.6	259	275	0.95	246,863	897
271～300	2,519	18.5	287	287	0.90	259,859	905
301～330	4,474	32.8	316	296	0.85	264,239	894
331～360	3,998	29.3	344	300	0.79	262,112	873
361～390	1,220	8.9	367	302	0.75	261,777	866
391～420	210	1.5	401	299	0.68	253,652	848
421～	136	1.0	450	302	0.61	246,382	816
合　計	13,635	100.0	321	294	0.83	260,948	886

去勢（雄を含む）

～120							
121～150	1	0.0	148	85	0.36	39,000	459
151～180	3	0.0	168	256	1.33	262,667	1,027
181～210	47	0.3	201	262	1.14	270,617	1,032
211～240	438	2.8	230	286	1.10	278,493	973
241～270	1,889	11.9	258	299	1.03	285,408	953
271～300	4,208	26.6	287	310	0.97	289,799	934
301～330	4,748	30.0	315	317	0.90	293,246	926
331～360	3,379	21.4	344	320	0.84	294,672	921
361～390	856	5.4	368	317	0.77	293,828	928
391～420	164	1.0	403	314	0.70	284,402	906
421～	88	0.6	447	334	0.67	297,068	890
合　計	15,821	100.0	309	313	0.91	291,162	931

の30%以上を占めている。平均出荷日齢は雌321日、去勢309日となっており、雌の出荷日齢が12日長くなっている。

平均販売価格及び1kg当単価で見ると、雌の場合271日～390日までの範囲ではほとんど価格差は見られなかった。去勢についても雌同様に、301日～330日の平均価格が293,246円に対し、331日～360日までは294,672円と、日齢で29日も差がありながら、わずか1,426円の価格差しか見られない。

(2) 出荷時の体重別市場成績

出荷時の体重については、雌の場合は281kg～310kgの範囲が最も取引頭数が多く、平均体重も294kgであった。去勢についても301kg～330kgにかけてが最も多く取引きされた。

表3 体重別子牛市場成績（熊本県）

（雌）

体重 (kg)	取引頭数	%	出荷日齢 (日)	出荷体重 (kg)	1日当り増体量 (kg)	販売価格 (円)	1kg当り単価 (円)
～200	102	0.7	316	183	0.49	143,578	786
201～210	75	0.5	312	206	0.57	165,067	800
211～220	117	0.8	312	217	0.61	174,821	807
221～230	222	1.6	314	226	0.63	186,032	822
231～240	340	2.4	308	236	0.68	195,632	828
241～250	530	3.8	313	246	0.70	205,140	834
251～260	806	5.7	311	256	0.73	213,707	835
261～270	1,048	7.5	313	266	0.76	226,112	851
271～280	1,324	9.6	316	276	0.78	235,166	852
281～290	1,594	11.6	318	286	0.81	249,603	873
291～300	1,632	12.0	321	296	0.83	259,388	877
301～310	1,535	11.4	324	306	0.86	271,131	887
311～320	1,251	9.3	325	316	0.89	284,269	901
321～330	1,078	8.1	328	326	0.91	298,663	917
331～340	766	5.8	331	335	0.93	308,987	921
341～350	494	3.8	333	345	0.95	324,664	940
351～	721	5.6	340	366	0.99	362,580	991
合計	13,635	100.0	321	294	0.83	260,948	886

去勢（雄を含む）

～200	40	0.2	302	177	0.48	159,400	902
201～210	34	0.2	297	206	0.59	188,118	912
211～220	78	0.5	294	216	0.63	198,231	918
221～230	128	0.8	299	227	0.65	212,445	938
231～240	185	1.2	306	236	0.67	220,703	935
241～250	320	2.0	303	246	0.71	232,088	943
251～260	486	3.0	300	256	0.75	244,658	955
261～270	741	4.6	301	266	0.78	257,430	968
271～280	1,049	6.4	299	276	0.82	266,313	966
281～290	1,345	8.3	302	286	0.84	274,399	960
291～300	1,537	9.6	304	296	0.87	280,942	949
301～310	1,659	10.4	306	306	0.89	288,231	943
311～320	1,718	10.8	307	316	0.92	295,059	935
321～330	1,648	10.5	310	326	0.95	301,050	925
331～340	1,346	8.6	312	336	0.97	308,160	918
341～350	1,096	7.1	315	345	1.00	317,349	919
351～	2,411	15.9	323	372	1.05	332,740	895
合　計	15,821	100.0	309	313	0.91	291,162	931

平均価格及び1kg当り単価の面で見ると、雌の場合出荷体重に比例して平均価格及び1kg当り単価が上昇している。去勢の場合も平均価格は上昇しているものの、1kg当り単価は261kg～290kgをピークに下降している。

〔付記〕

以上紹介した分析区分のほかに、移出先別、種雄牛別、系統間交配別等についても分析を試みたが紙面の都合で割愛した。詳細については熊本県畜産物価格安定基金協会発行の『肉用子牛の市場調査』第1巻～第4巻をご参照願います。

◎ あか牛子牛市況

(61年２月～)

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
北海道	61 4．25	道南	めす	41	289,000	160,000	215,000	240
			おす	13	285,000	220,000	236,000	258
			去勢	44	308,000	164,000	247,000	270
	9．11	道南	めす	14	325,000	193,000	275,000	274
			おす	5	270,000	200,000	224,000	227
			去勢	26	374,000	220,000	300,000	278
秋田県	2．24	能代	めす	38	366,000	211,000	274,342	320
			去勢	61	374,000	243,000	297,918	337
	2．25	北秋田	めす	77	489,000	167,000	250,273	307
			去勢	105	371,000	130,000	283,543	335
	4．22	阿仁合	めす	17	300,000	194,000	248,352	284
			おす	3	270,000	183,000	225,333	271
			去勢	14	341,000	231,000	288,642	302
	4．23 24	北秋田	めす	89	521,000	179,000	303,764	318
			去勢	108	427,000	171,000	339,074	342
	4．25	能代	めす	58	501,000	225,000	300,793	320
			去勢	65	401,000	246,000	329,723	329
	6．14	二ツ井	めす	53	440,000	249,000	305,000	299
			去勢	86	431,000	262,000	340,837	335
	6．15	北秋田	めす	91	632,000	111,000	325,813	315
			おす	1	355,000	355,000	355,000	410
			去勢	72	438,000	219,000	347,833	335
	8．23	阿仁合	めす	12	350,000	231,000	270,333	274
			去勢	12	425,000	273,000	346,750	341
	8．24	北秋田	めす	66	585,000	271,000	353,288	324
			去勢	65	417,000	277,000	363,908	345
	8．25	二ツ井	めす	54	567,000	288,000	343,463	317
			去勢	61	413,000	285,000	364,082	336
長崎県	3．6	対馬家畜市場	めす	85	378,000	68,000	239,894	284
			おす	12	321,000	147,000	227,833	272
			去勢	88	382,000	158,000	267,159	299
	7．6	対馬家畜市場	めす	77	375,000	163,000	280,636	291
			去勢	101	439,000	159,000	321,099	321
	9．12	経済連島原家畜市場	めす	55	448,000	231,000	317,000	312
			おす	3	243,000	203,000	223,000	206
			去勢	61	437,000	241,000	347,934	333
熊本県	61 4 4．1 6	南阿蘇	おす	407	987,000	140,000	300,602	300
			めす	9	605,000	293,000	396,667	316
			去勢	555	445,000	200,000	334,744	310

熊本県	4．17～19	球磨	めす	546	1,228,000	139,000	300,378	299
			おす	2	303,000	289,000	296,000	313
			去勢	605	434,000	178,000	326,484	310
	4．30	小国	めす	119	406,000	157,000	275,865	278
			去勢	127	404,000	235,000	336,598	305
	5．17～19	阿蘇	めす	457	655,000	194,000	303,892	305
			おす	10	501,000	283,000	370,100	354
			去勢	645	481,000	127,000	342,990	325
	5．20～21	矢部	めす	295	650,000	110,000	285,973	296
			おす	2	450,000	265,000	357,500	350
			去勢	376	385,000	175,000	316,742	311
	5．22～23	菊池	めす	272	711,000	164,000	289,287	
			おす	3	550,000	346,000	387,667	
			去勢	313	456,000	210,000	318,981	
	5．24	大津	めす	131	1,640,000	167,000	305,847	300
			おす	4	400,000	231,000	357,750	289
			去勢	160	421,000	240,000	327,913	328
	5．25～26	山鹿	めす	209	845,000	175,000	299,406	306
			去勢	249	450,000	152,000	327,570	324
	6．2	上益城	めす	67	470,000	145,000	258,134	287
			おす	3	320,000	275,000	293,333	314
			去勢	71	454,000	256,000	314,816	323
	6．3	下益城	めす	159	710,000	212,000	309,164	305
			おす	1			340,000	387
			去勢	172	423,000	259,000	339,779	329
	6．4～6	南阿蘇	めす	476	789,000	101,000	286,597	300
			おす	4	550,000	249,000	392,250	298
			去勢	641	408,000	130,000	322,023	314
	6．9	小国	めす	94	356,000	138,000	229,808	260
			おす	2	415,000	105,000	310,000	288
			去勢	107	392,000	169,000	296,897	291
	6．17～18	球磨	めす	532	632,000	147,000	294,969	299
			おす	7	545,000	258,000	386,000	347
			去勢	532	392,000	190,000	320,947	313
	7．17～19	阿蘇	めす	486	861,000	208,000	303,088	303
			おす	2	383,000	370,000	376,500	425
			去勢	589	420,000	108,000	336,526	323
	7．20	矢部	めす	222	720,000	200,000	292,432	293
			おす	2	430,000	327,000	378,500	362
			去勢	234	380,000	202,000	321,248	303
	8．4～6	南阿蘇	めす	457	712,000	40,000	302,094	296
			おす	5	510,000	290,000	349,400	306
			去勢	539	453,000	112,000	335,581	306

熊本県	8．9	小　国	めす	141	505,000	55,000	270,028	268
			おす	2	451,000	300,000	375,500	319
			去勢	139	413,000	236,000	321,762	290
	8．17～18	球　磨	めす	409	722,000	20,000	299,254	290
			おす	15	456,000	229,000	288,733	301
			去勢	434	401,000	188,000	329,880	311
	8．22～23	菊　池	めす	216	690,000	153,000	290,444	287
			おす	4	500,000	130,000	290,250	271
			去勢	233	421,000	101,000	338,575	305
	8．24	大　津	めす	108	700,000	150,000	312,287	287
			おす	1			495,000	367
			去勢	147	425,000	261,000	357,585	314
	8．25～26	山　鹿	めす	171	730,000	208,000	314,040	293
			去勢	168	444,000	246,000	353,315	311
	9．2	上益城	めす	47	380,000	225,000	297,085	293
			おす	4	303,000	274,000	291,000	305
			去勢	42	395,000	271,000	352,261	316
	9．3	下益城	めす	130	750,000	195,000	330,046	297
			去勢	117	470,000	120,000	360,983	319
	9．17～19	阿　蘇	めす	486	752,000	124,000	339,648	300
			おす	5	502,000	384,000	413,400	346
			去勢	589	470,000	256,000	378,872	326
	9．20	矢　部	めす	169	700,000	221,000	336,533	291
			おす	2	355,000	304,000	329,500	326
			去勢	213	431,000	280,000	356,685	303
	10．4～6	南阿蘇	めす	423	759,000	51,000	337,312	294
			おす	5	503,000	123,000	356,400	292
			去勢	542	462,000	64,000	370,380	306
	10．9	小　国	めす		404,000	216,000	301,888	277
			去勢		402,000	253,000	331,306	286
	10．17～18	球　磨	めす	383	805,000	195,000	358,097	296
			おす	2	377,000	192,000	284,500	258
			去勢	432	499,000	211,000	375,363	310

◎　国内子牛価格の推移

年　　度	和牛子牛			
	めす		おす	
	価　格(円)	対前年比%	価　格(円)	対前年比%
40	54,540	156	51,630	163
41	78,110	143	73,550	142
42	89,200	114	81,300	111
43	116,200	130	88,940	109
44	84,910	73	69,830	79
45	83,780	99	87,330	125
46	107,600	128	114,900	132
47	143,900	134	147,800	129
48	301,800	210	272,000	184
49	236,100	78	173,300	114
50	206,500	87	179,300	103
51	224,300	109	233,000	130
52	241,800	108	250,600	108
53	264,800	110	261,400	104
54	344,300	131	329,300	126
55	371,500	108	347,200	105
56	343,700	93	300,200	86
57	258,000	75	245,700	82
58	205,000	79	225,200	92
59	203,500	99	238,900	106
60	241,500	119	277,400	116
61年1月	264,700	115	298,400	115
2	266,400	112	299,400	114
3	269,400	120	300,200	118
4	265,400	124	298,500	121
5	265,200	123	299,400	117
6	264,900	123	303,700	119

資料：農林水産省統計情報部「農村物価指数」「農家販売価格」

第57号

昭和61年10月20日印刷
昭和61年10月31日発行

編集　川崎広通

発行所　日本あか牛登録協会
熊本市草葉町1－21
畜産会館内
振替　熊本1510
TEL(096)356－7597
〒860

印刷者
村嶋農志郎

印刷所
村島印刷
熊本市小山町423
TEL(380)7095
〒861-22